

5 心臓・血管検診クリニックによる一般住民を対象とした循環器疾患コホート研究：ベースライン調査の実績と追跡調査の現状

研究代表者名：中村元行¹

共同研究者名：田中文隆¹、高橋智弘¹、佐藤権裕¹、瀬川利恵¹、蒔田真司¹、肥田頼彦¹、石曾根武徳¹、小野寺正幸¹、小野田敏行²

施設名：岩手医科大学医学部 内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野¹、同 衛生学公衆衛生学講座²

1. ベースラインデータ調査法と JALS 提出状況

当該地域の性・年代（10歳別）の人口構成割合に準じた地域集団コホートを設けるために40歳以上80歳未満の町民を無作為に選択し、2002年から2003年にかけて文書で当検診研究への参加募集を行った。そのうち同意のあった1057名（同意率60%）を対象としてJALSコホートとした（男性510名、女性547名、平均60+/-10歳）。当該地域の40歳以上の人口の約20%が参加した。検査項目はJALSで要求された基準を満たし、生活・既往などの一般問診、栄養調査および身体活動調査を実施した。

2002年4月より研究を開始し、2003年度末までに当該地域で1,057名のデータを得た。統合研究で要求されている既往歴、家族歴服用薬（種類、食事療法の有無、運動療法）、喫煙、飲酒、閉経、身長体重のデータを全員で得た。血圧は標準化された方法で計測した。心電図のミネソタ・コードはECG記録用紙に打ち出されたものを提出した。血液学的検査は統合研究で要求された項目を国際標準化プロトコルを受けた外部検査機関（BML）に委託し測定を完了した。栄養調査はshort versionで全例に実施した。また、身体活動調査も統合研究のプロトコルに準じて411例に実施した。以上のデータ（1057名分、身体活動調査のみ40%）を2004年2月にJALS事務局へ提出した。

2. 追跡調査の実績

発症調査は2年ごとに死亡者以外に対するアンケート調査をもとに行なっている。2005年秋に第一回目、2007年冬に第二回目、2010年秋に第三回目の調査を終了した。アンケート回収率は約95%であった。このアンケート調査結果から発症疑いのあった受診者を対象として地域基幹病院を訪問しカルテ調査を行なった（第一回目2006年3月、第二回目2008年4月、第三回目2011年2月）。これらのカルテ調査結果、心筋梗塞症（カテーテル治療含む）4例、虚血性脳卒中16例、出血性脳卒中5例、クモ膜下出血2例、型不明脳卒中1名の計28例の発症を確認した。また、死亡と異動に関しては当該自治体から毎年情報を得ている。2010年8月までの結果では死亡72名、異動15名であった。さらに、昨年は死因を明らかにするために自治体情報とは別に全コホート対象者に死因に関するアンケートを行った（平成23年4月）。その結果、2010年8月から2011年4月の間に新たに5名の死亡が確認され計77名の死亡を確認した。その家族から56名に関する死因アンケートが回収できた。その結果では16名の循環器系疾患死亡が判明した（5名が心筋梗塞症、2名が心不全、9名が脳卒中）。以上の結果のまとめを図1に示した。今年夏までに4回目の発症アンケートを実施予定である。

